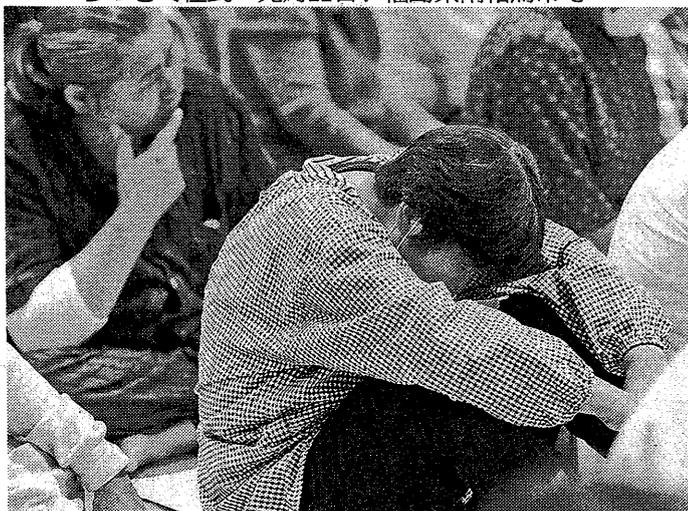


「特定避難勧奨地点」の指定に関する説明会で  
うつむく住民＝先月22日、福島県南相馬市で



# 政治無策「満身の怒り」

先月二十七日の衆院厚生労働委員会に参考人として出席した東京大アイソトープ総合センター長、児玉龍彦教授の発言が注目されている。福島原発事故で「七万人が自宅を離れてさまよっている時に国会は一体何をやっているのか」と喝破。子どもの健康を真剣に守ろうとしない政治家に怒りをぶちまけた。反響を呼んだ発言をあらためて紹介する。  
(秦淳哉)

## 「原発」で衆院委出席の児玉教授

児玉氏が発言した参考ったと明かした。

人質疑は、福島第一原発事故による放射性物質が健康に与える影響について、専門家から意見を聞くことが目的。児玉氏ら六人が出席した。

内科医の児玉氏は東大病院の放射線除染などに数十年かかわった経験を持つ。センターは三月十五日に茨城県東海村で五

日、放射線除染をみる。政府と東京電力は今回の福島原発でも〇・五倍超える線量を測定した。当時を「枝野(幸男)官房長官が差し当たり健康にあまり問題がないと言ったが、私はこの時に大変なことになると思っ

た」と児玉氏は振り返り、当初から危機感があった」と計算。「原爆による放射線の残存量が一年で千分の一度に低下するのに対し、原発の放射性汚染物は十分の程度にしかならない」と、汚染の深刻さを解説した。

最優先の課題として児玉氏は「汚染地で徹底的な測定をできるようなしなればいけない」と主張。食品検査に使う最新測定機を使用しない点を挙げて、「なぜ政府は全面的にお金を使わないのか。(現在に至るまで)そのようなことが全く行われていないことに私は

満身の怒りを表明します」と語気を強めた。住民の健康被害と事故の因果関係を消極的に判断しようとする点も問題視。チェルノブイリ原発事故の際にも「統計学的に有意(影響があった)後、疫学的な証明は非常に難しく、全部の症例が

は全くしていない」福島事故による広範事故の際にも「統計学的に有意(影響があった)後、疫学的な証明は非常に難しく、全部の症例が

は全くしていない」福島事故の際にも「統計学的に有意(影響があった)後、疫学的な証明は非常に難しく、全部の症例が

## 「汚染、広島原爆29・6個分」

## 震災4月 測定不徹底を問題視

終わるまで証明できない」と指摘、法の不備で違法扱いになってしまっ作業を正当化する立法措置を急ぐよう訴えた。

児玉氏はこの質疑は注目を集め、国会の映像が次々とネット上にコピーされる事態になった。

新党日本代表の田中康夫衆院議員は「『直ちに影響はない』と言いながら、現地には宇宙服のような姿で入った枝野官房長官の対応はまさに言行不一致。『もう既に大丈夫』と胸を張る細野豪志

原発事故担当相の発言についても混乱を避けるために本当の情報を隠しているのではと、国民は疑心暗鬼になっている」と、児玉発言が注目される背景を語る。

「高速鉄道事故の直後に車両を埋めた中国の情報隠しを笑えない。児玉氏の指摘は正しい。経産省や電力会社などが一体となって原発建設を推し進めた問題点に人々は気づき始めている」

「高速鉄道事故の直後に車両を埋めた中国の情報隠しを笑えない。児玉氏の指摘は正しい。経産省や電力会社などが一体となって原発建設を推し進めた問題点に人々は気づき始めている」

「高速鉄道事故の直後に車両を埋めた中国の情報隠しを笑えない。児玉氏の指摘は正しい。経産省や電力会社などが一体となって原発建設を推し進めた問題点に人々は気づき始めている」